

建築生産系国際ワークショップ(ベトナムワークショップB)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2026年09月14日 ～2026年09月23日	ベトナム	交通運輸大学	・建築学科、建築学専攻 ・学部2年生、学部3年生、学部4年生、修士1年生、修士2年生	(芝浦工業大学) 学生28名、学生バイト4名、 教員2名 (交通運輸大学) 学生30名、教員2名	志手 一哉(建築学科)、蜷澤 宏剛(建築学科)



図1 ワークショップの告知

ベトナム・ハノイにキャンパスを持つ交通運輸大学(UTC)において、コンストラクションマネジメント学科の学部生30名と、芝浦工業大学で建築生産を専攻する学部生・大学院生29名が合同で、建築生産系国際ワークショップを実施しました。ワークショップのテーマは、「Building Information Modelling (BIM) for Urban Rail Stations and Underground Development under the Concept of Transit Oriented Development」と題し、具体的には2024年8月に運行を開始したハノイ都市鉄道3号線カウザイ駅周辺に7つのエリアを設定し、各グループがそれぞれのエリアに地下街と地上施設を計画してBIMソフトウェアでモデリングを行うものでした。事前に、Transit Oriented Development: TOD(公共交通指向型開発)の学習とグループごとのWebミーティングを行い、現地ではCommon Data Environment: CDE(共通データ環境)の機能を用いた共同モデリングを実施しました。SITとUTCの学生が互いにアイデアを出し合いながら計画を練り、6日間のワークタイムで完成度の高いプレゼンテーションをしました。成果発表会は、2名のゲストによる特別講演、協賛社からの評価による優秀賞選出など、盛大に行われました。さらに、Ba Viのフランス統治時代の教会の遺跡、Vietnam Ethnic Culture Villageにおける民家建築などを視察し、充実したグローバルPBLとなりました。



図2 ワークショップの状況-1



図3 ワークショップの状況-2



図4 成果発表後の集合写真



図5 グループの成果物の例



図6 Publishされた統合データ



図7 教会遺跡での集合写真